地域支援部だより

〒781-0010　高知県四万十市古津賀 3091
高知県立中村特別支援学校　地域支援部
TEL0880-34-1511　Fax0880-34-1625

R5. 第3号

もうすぐ雨の多い季節になりますね。ちょっとうっとうしいイメージはありますが、傘をさすのが楽しい、レインコートを着るのが楽しい、長靴をはくのが楽しい、雨上がりの虹、アジサイの花など、子どもたちにとってはこの時期ならではの楽しむ要素や発見がある季節でもありますね。

みんな同じって？

以前、数学の授業中、計算が極度に苦手な生徒に、「計算機を使ってもいいよ」と声をかけたことがあります。でも、その生徒は「みんなが使っていないので･･･」と計算機の使用を拒みました。「この範囲は計算よりも、その理論を理解し思考することが大切で、この計算はすでに既習の内容だから、計算は計算機でやろうよ」と、もう一度声を掛けましたが、やはり返事は同じでした。「みんなと同じゃないと」という考え方から脱却することは難しいと感じた一場面でした。

「発達障害児(者)への ICT 機器活用の基本的視座 ―ICT でしかねらえない学習や発達の成果とは何か？―(水内豊和　2015)」の中では、アメリカのある学校の例を取り上げながら、次のようなことが述べられています。

「担当教諭はその授業の中の学習活動として**まずもって何が大事か**というと、しっかり知識を学ぶことだと考えているので、姿勢はそれに比べて**優先順位**は低いため問われないのである。･･･(中略)･･･教育のねらいを達成するために、補助･代替手段が寄与すること、**つまり内容を落とすのではなく、方法で支援する**という原則について大きな示唆を与える」と。

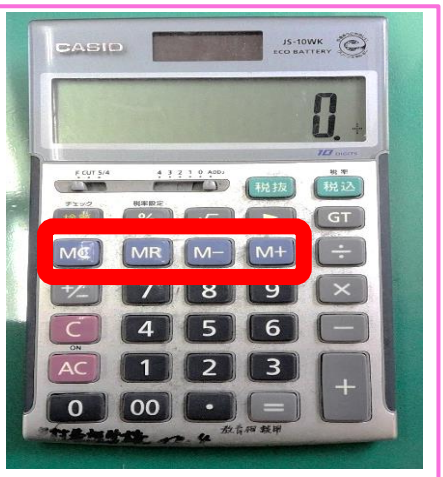
近年、インクルーシブ教育システム、ユニバーサルデザインの授業などが提唱され、通常の学級においても児童生徒一人一人の特性に合わせて支援しようと実践されています。目的やゴールは同じでも、そのことを達成するための方法･手段は人それぞれであるということを指導･支援者がしっかり理解し、子どもたちがそれぞれにふさわしい学習スタイルを身に付けることができるよう心がけることが大切ですね。

最後に、先日「スペインのノーベル賞」とも呼ばれるアストゥリアス皇太子賞･文学部門を受賞した作家の村上春樹さんの言葉を紹介したいと思います。

「僕らはとても不完全な存在だし、何から何まで要領よくうまくやることなんて不可能だ。不得意な人には不得意な人のスタイルがあるべきなのだ。」(村上朝日堂はいほー！　新潮文庫)

なかなかインクルーシブ的な名言ですよね。

計算機の機能



計算機に$\boxed{M+}$や$\boxed{M-}$などのボタンがありますが、このボタンの機能を知っていますか？これはメモリーボタンと言って、計算をいったん記憶してくれるボタンです。例えば、1000－50×3－100×2を計算機でそのままやってしまうと、5500という結果になってしまいます。実際の答えは650ですね。これは、＋、－よりも×、÷を先に計算するという決まりができないから起こる結果です。

でも、メモリーボタンを使えば、次の手順でできます。

①1000　→　②$\boxed{M+}$　→　③50×3　→　④$\boxed{M-}$
→　⑤100×2　→　⑥$\boxed{M-}$　→　⑦$\boxed{MR}$ (MRのRはリコールです)

これを言葉で説明すると　①1000円もらった、②もらったのだから＋で覚えて、③50 円のものを3つ買った、④お金を使ったのだから－で覚えて、⑤100円のものを2つ買った、⑥お金を使ったのだから－で覚えて、⑦今までの計算を呼び戻して、という感じになります。